

第 3 期岩倉市地域福祉計画 令和7年度進捗評価シート

基本目標	2 誰一人取り残さない、寄り添う支援がある地域(まち)づくり
施策	(1) 孤独・孤立化の防止

<現状と課題>

- ・雇用環境や人々のライフスタイルの変化、さらには核家族化や未婚化・晩婚化が進んだことなどにより、地縁・血縁によるつながりが希薄化しています。さらに近年では経済情勢の悪化や新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、孤独を感じたり、どことも・誰ともつながりを持たず孤立する人に関する問題が顕在化してきました。
- ・このような状況を受け、孤独・孤立は個人の問題ではなく社会全体で対応しなければならない問題であるとの認識のもと、国において令和3年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」が策定されました。
- ・つながりたいのに孤立している状況、孤独感を強く持つ状態は、自殺という最悪の事態につながってしまう場合があります。本市では平成30年に「岩倉市自殺対策計画」を策定し、生きることの包括的な支援や様々な分野と連携した総合的な施策展開等を方針として掲げ、施策を推進しています。
- ・孤独・孤立を生まない地域にしていくなめには、誰かとつながることができるきっかけや居場所が必要です。本市では、主に高齢者を対象としたサロンや、自分のペースで過ごすことができる居場所を設置しています。人と人がつながることができる、そして必要な場合は支援につなぐことができる、様々な居場所づくりを推進していく必要があります。

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	指標数値根拠 担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
孤独感や孤立感を「大いに感じる」、「感じる」市民の割合	14.6%	-	-					10.0%	第3期地域福祉計画策定に合わせて実施したアンケート指標のため実績なし。	市民アンケート 福祉課

単位施策:11 生きることへの支援(岩倉市自殺対策計画の推進)

・「岩倉市自殺対策計画」に基づき、相談事業等による総合的かつ効果的な対策を推進し、誰も自殺に追い込まれることなく、安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
ゲートキーパー研修参加者数(累計)	350 人	398 人	449 人	518 人				500 人	ゲートキーパー研修のテーマや参加者募集チラシを工夫することで順調に参加人数を増やしている。	福祉課

事業				取組内容及び成果				課題及び今後の方向性		
●ゲートキーパー研修		福祉課		年間 2 回の研修を実施した。妊産婦の自殺が重要な課題となっていることを踏まえ、令和 7 年度はうち 1 回を「妊産婦の心に寄り添うゲートキーパー講座」として開催し、特定の対象者の課題に寄り添う、より実践的な知識の普及を図ることができた。				実施内容や周知方法の工夫等により、受講者数の増加を目指す必要がある。		
●臨床心理士によるこころの健康相談		健康課		市民がこころの健康に関する相談ができるよう、毎月2回、計 24 回の相談日を				引き続き、気軽に相談できる環境を整え、こころの健康に関する相談		

		設け、環境を整えた。相談に応じ必要な支援を行うことにより、精神疾患の予防、早期治療につなげる取組を行った。相談者数は延 46 人で、市民の精神的な不安を軽減し、こころの健康の保持増進を図ることができた。							に応じ、必要な指導及び助言を継続していく。	
●その他										
単位施策:12 身近な居場所づくりの支援										
・地域における多様な居場所づくりを支援します。また、多世代で交流できる場や創出することで、誰もが孤立することなく、つながりあえる関係づくりを促進します。										
成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
サロン等の地域の居場所の数	19 か所	20 か所	20 か所	19 か所				30 か所	新たなサロン 1 か所が立ち上がった一方、参加者が高齢となり、参加者数が減少したことにより存続が困難となったサロンが2か所あった。	社会福祉協議会 長寿介護課
事業								取組内容及び成果		課題及び今後の方向性
●こころの居場所あみ～ご		福祉課、健康課、社会福祉協議会						精神障がい者家族会が毎月第 3 金曜日に開催する「こころの居場所あみ～ご」の運営支援を関係機関と連携して行い、延べ 110 人の参加があった。 関係機関と連携して、あみ～ご参加者への支援を行い、参加者のこころの健康に関する相談に応じた。		引き続き、関係機関と連携し、「こころの居場所あみ～ご」の運営支援を継続していく。 あみ～ごの参加につながっていない人への支援(アウトリーチ等)が必要だと思われる。
●高齢者交流サロン活動費助成金		長寿介護課						高齢者交流サロンの運営に対し4団体に補助金を交付し、高齢者が身近に通うことができる通いの場の活動支援を行った。		新たに立ち上がるサロンが少なく、身近な地域での集いの場の拡充が課題であり、周知方法を見直す必要がある。引き続き、高齢者交流サロンの活動や立ち上げに補助を行い、高齢者の通いの場の拡充や活動の支援を行う。
●ふれあい・いきいきサロン活動		社会福祉協議会						市内19か所において住民が中心となりサロン活動を実施。新規立ち上げ1件、解散1件。また、市内7支会において、高齢者昼食会や地域交流会等を実施し、高齢者の介護予防や地域住民のつながりづくりを図るなど、地域の実情に合わせた取組を行った。		引き続き、高齢者交流サロンの活動や立ち上げに対する補助を行い、高齢者の通いの場の拡充や活動の支援をしていく。
●子ども食堂支援		社会福祉協議会						子ども食堂3か所へ助成金を交付した。また、食料支援や助成金等に関する情報提供や実施内容等に対して相談支援を		地域の実情に合わせた取組を行っていく。

					施した。	
●多世代交流センターさくらの家、南部老人憩いの家、児童館、地域交流センター、ひろば等				長寿介護課、こども家庭課	多世代交流センターさくらの家では、令和7年度から管理・運営が指定管理者へ移行し、e スポーツフェスやドローン体験会などを実施し、多世代での交流を深めることができた。 また、南部老人憩いの家と多世代交流センターさくらの家の両施設を臨時開館として老人クラブ連合会に委託し、誰もが参加できる催しを企画するなど、多世代交流に努めた。各児童館で、老人クラブ会員との地域交流会を開催し、世代を超えた交流を深めることができた。	多世代交流センターさくらの家の指定管理者による多世代交流事業の更なる充実を目指す。引き続き、児童館等で多世代の交流の場を作っていく。
●大切な人を亡くされた人のお話会				長寿介護課	「大切な人を亡くされた人のお話会」を3回開催し、12人の参加があった。 また、保健師や地域包括支援センター職員も聞き役として参加した。 大切な人を亡くした経験を持つ人同士で話をする機会を設け、心の痛みを和らげることなどに努めた。	引き続き、心の痛みなどを和らげる機会として開催するとともに、会の開催方法や運営についても参加者の意見を聞きながら検討していく。
●その他						
事務局評価	取組 2	指標 Ⅱ	評価 B	評価理由	ゲートキーパーの人数が目標を上回り、「生きることへの支援」において確実な成果を上げている。一方で、サロン等の居場所数は令和6年度から減少しており、目標に向けて厳しい状況にある。引き続き、地域ニーズを捉えた新規立ち上げの促進とともに、既存サロンが活動を継続できるような運営支援の強化が重要である。	
推進委員評価	B			推進委員評価 判断理由・コメント	ゲートキーパー研修参加者数が目標 500 人に対し 518 人となり、成果を上げている。特に「妊産婦の心に寄り添う講座」のように、特定の対象を絞った実践的な知識普及は評価に値する。一方で、ふれあい・いきいきサロンが 19 箇所と減少傾向にある点は、地域における「居場所」の課題である。既存サロンの継続に向けた運営支援強化と、新たな居場所づくりの促進という両輪の対策が不可欠である。	